18a-PA1-21

光速度は可変であり相対性理論は物理上の完全な誤り Ⅷ

The light velocity is variable
and the relativity theory is complete mistake on physics　Ⅷ

ダビンチ研　○土田成能，平田　剛
Da-vinci Lab：　Shigeyoshi Tsuchida, Tsuyoshi Hirata
E-mail：davinci-mitsumori@a011.broada.jp

１．はじめに

「光速度は可変」であり，相対性理論が数学上，また理論上の誤りであることを単純な数式の導出をもって示すことができる．導出は，第一にローレンツ変換を $\sin\theta$ とすること第二に，光の波動の伝播，粒子（光子）の走行を座標系に適用することでなされる．

２．相対性理論の論理

相対性理論の「光速度不変」原理の論拠は，「光の媒質に対する地球の相対運動を発見しようという試みの失敗」に帰着する．結論は空間の変換，「ローレンツ収縮」である．

３．相対性理論の数学的・理論的破綻

（Ⅰ）光は球面波であり，同一座標系において，方向によらず同一時間同一距離を走行する．

$$2\sqrt{l^2+\left(\tfrac{1}{2}vt\right)^2}=2l+\left(vt_1-vt_2\right) \qquad (1)$$

（Ⅱ）斜辺から対辺へ，ピタゴラスの定理により

$$2\sqrt{l^2+\left(\tfrac{1}{2}vt\right)^2}\times\sin\theta=2l \qquad (2)$$

（Ⅲ）相対性理論におけるローレンツ変換により

$$2\sqrt{l^2+\left(\tfrac{1}{2}vt\right)^2}\times\sin^2\theta=2l \qquad (3)$$

この３式は相対性理論の数学上の破綻を示す．

（Ⅳ）相対性理論の同時刻の定義 $\tau_1=\tfrac{1}{2}\left(\tau_0+\tau_2\right)$ より，$t=t_1+t_2$ は $t=\tfrac{1}{2}t+\tfrac{1}{2}t$ となり

$$\frac{2l+(vt_1-vt_2)}{c}=\frac{2l}{c} \qquad (4)$$

（Ⅴ）ローレンツ変換とは「時間空間の同時変換」，「波動から粒子への変換」である．

$$\frac{2l}{\sqrt{c^2-v^2}}\times\sin\theta=\frac{2l}{c} \qquad (5)$$

$$\frac{2lc}{c^2-v^2}\times\sin^2\theta=\frac{2l}{c} \qquad (6)$$

この 3 式は $v=0$ で同値であり，「光速度不変」原理の理論上の破綻を示す．

４．結論

「光速度は可変」であり，相対性理論は物理上存在しない．

© 2014 年　応用物理学会